

Biodata Bank, Inc.

PRESS RELEASE



警備作業現場における

熱中症予防対策ガイドンス策定に係る実証実験の実施

Biodata Bank 株式会社 (代表取締役社長：安才武志) は ALSOK と共同し、独自に開発したリストバンド型熱中症対策デバイス『Biodata Band』を活用した、個人の特性にフォーカスした熱中症予防の実証実験 (以下、「本実験」という) を実施いたします。本実験は環境省の「平成31年度熱中症予防対策ガイドンス策定に係る実証事業」として採択されております。この取り組みは、これまでの WBGT を用いたマスをターゲットに行う熱中症対策から、技術の進歩から可能となった個人をターゲットに行う新しい熱中症対策を普及させていくことを目的としております。

本実験の 概要

期 間：2019年8月～9月
場 所：全国各地の警備現場
対 象 者：機械警備、警備輸送、常駐警備業務をそれぞれ行う隊員
実施主体：ALSOK、Biodata Bank 株式会社



Biodata Bank, Inc.

本実験の目的、内容、期待される効果

警備には、常駐警備、機械警備、警備輸送等があり、勤務場所も屋外イベント会場、警備施設内、警備車両等と幅広く、暑熱環境の違いもそれぞれです。盛夏においては、勤務場所の気温が上昇し、特に屋外では熱中症リスクが高まることから、ALSOKではこれまでも熱中症対策グッズの活用など、様々な熱中症対策に取り組んでまいりました。

そのような暑熱環境下の現場に、熱中症の直接的要因である深部体温という部分に着目し、深部体温の上昇から熱中症になる前にアラートを鳴らすことで主体的な熱中症対策（冷たい水分を摂取する・涼しい屋内で休む・交代を要請するなど）を促すリストバンド型熱中症対策デバイス*『Biodata Band』を配布します。それにより作業現場ごとの個々人に対する熱負荷を可視化することで、暑熱耐性に合わせた人員配置や、熱中症の重症化予防が可能となり、さらには熱中症に対する現場の意識、態度、そして行動の変化を分析し、新たな熱中症対策の提案と社会実装につなげるのが目的です。

本実験の具体的な流れは下記の通り予定しております。

- ① 対象者へのデバイスの取扱、実証実験の目的 / 意義に関する説明。
- ↓
- ② 年齢・性別・内服歴などの情報をアンケートにより取得。
- ↓
- ③ デバイスの配布および装着。
- ↓
- ④ デバイスを装着した日の状況・行動およびデバイスの装着感・使用感をアンケートにより調査。
- ↓
- ⑤ 回収したデバイスからデータを採取。アンケート内容と照合し、統計学的に解析。
- ↓
- ⑥ 共同する機関に対して結果を報告。



本実験により、暑熱環境である作業現場における個々人にかかる熱負荷と身体の状態などが可視化され、年齢や暑熱順化の程度など、個々人の耐性に配慮した人員配置を行う事が可能となります。またアラートによる意識の変化と行動変容が明らかになり、個人のバイタルデータと連動した新たな熱中症対策の構築が進展し、ガイダンス策定などその社会実装に向けた道筋が具体化されます。



図：配布する『Biodata Band』

本件に関する
お問い合わせ先

Biodata Bank 株式会社

担当：塩谷隆太（メディカルラボ統括責任者）

電話：03-6416-4924 Email: shioya@biodatabank.co.jp HP: <https://biodatabank.co.jp/>